

## 2022年度 第2次年次達成度報告書

担当委員会	学士課程・大学院教育委員会	
分野	〈大学〉教育	
基本方針（第1層）	大学憲章の基本理念に基づき、教育、研究、社会貢献並びに大学運営を推進します。	
中期目標（第2層）	三つのポリシーに基づき、学生の成長を促す教育を実践します。	
中期計画（第3層）	10 全学的なデータサイエンス教育の充実	
実行計画（第4層）	実行計画名	(1)体系的なデータサイエンス教育の開講、構築
	計画内容	正課授業において全学的に展開するデータサイエンス教育として、共通教育科目の情報分野科目を中心とした、体系的な教育プログラムを開講、構築する。

### ■数値目標、達成時期、ゴールに達した状況

2022年度後期終了時に、共通教育科目の情報分野科目の履修状況や成績等の学修成果から、その妥当性を検証できている状況。
---

### ■各年度のPDCA

2022年度		
	活動目標・指標	手段・方法
<b>Plan(計画)</b> (誰のために、何のために)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次前期科目「データサイエンス基礎（遠隔オンデマンド）」を開講し、履修者を確保する。単純確率では、13%以上であれば高い履修率といえる。</li> <li>・1年次後期科目「データサイエンス（遠隔オンデマンド）」を開講し、履修者を確保する。単純確率では、11%以上であれば高い履修率といえる。</li> <li>・全学的な合格率は85%程度だが、数理科目であることを考慮し、合格率は両科目とも70%程度を見込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に履修促進のチラシを配布する等し、学生に周知を図る。</li> <li>・各学期終了後に履修率や合格率を通じて教育評価を行う。</li> </ul>
<b>Do(実施・実行)</b>	活動実績・実績数値	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に履修促進のチラシを学生に配付した。</li> <li>・各学期終了後に履修率や合格率を通じて教育評価を行った。</li> <li>・授業はポストコロナにおける新たな授業形態の可能性に鑑みて、全てオンデマンドにて行った。</li> </ul>	
<b>Check(点検・評価)</b>	自己点検・評価	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「データサイエンス基礎（遠隔オンデマンド）」の履修者数は395人であった。新入生の履修率は 14.4% で、履修の単純確率を上回った。</li> <li>・合格者数は 295人 で合格率は 74.7% で、見込みを上回った。</li> <li>・「データサイエンス（遠隔オンデマンド）」の履修者数は839人であった。新入生の履修率は 38.6% で、履修の単純確率を大きく上回った。</li> <li>・合格者数は 507人 で合格率は 60.4% で、見込みを下回った。</li> <li>・履修の単純確率算出方法は、薬学部を除く全学部の1年次共通教育科目数（一部、連携科目や留学生対応科目を除く）、前期30科目、後期37科目を分母とし、且つ各学期に語学4科目=4単位は履修するものと仮定し、残る選択可能単位数8単位=4科目を分子とした（1単位科目は考慮していない）。</li> </ul>	
<b>Act(処置・改善)</b>	課題・問題点	改善方策・発展方策（次年度活動目標・指標／次年度年次目標）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修者の確保は、当初の計画以上に成果をあげている。その分、後期に合格率が低下したことは止む無いと考えられる。</li> <li>・履修者は前期より後期の方が大幅に増加したが、合格率は下がっている。オンデマンド授業による学修継続の困難さが要因の一つであると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、履修者を確保しつつ、学生の学修成果の向上に資する授業方法を検討する。</li> <li>・オンデマンド授業であっても学修継続できるように、授業設計に工夫を凝らす。</li> </ul>

達成度(中間)
B
達成度(期末)

### 【達成度】

- S：目標をはるかに上回る
- A：目標をやや上回る
- B：おおむね目標どおり
- C：目標をやや下回る
- D：目標をかなり下回る